日赤みえ

2017. 1

災害救護訓練で懸命に傷病者を搬送する日赤職員と救護ボランティア

※訓練については２ページ目の記事をご覧ください

赤十字の活動にご支援いただきありがとうございます

日本赤十字社三重県支部は、毎年 5 月の「赤十字運動月間」を中心として、県民のみなさまに活動資金のご協力をお願いしています。今年度もたくさんのみなさまのご支援に支えられてさまざまな活動を行うことができました。

これからも、地域の赤十字としてより一層県民のみなさまに理解され、支持していただけるよう活動を展開してまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

発災直後から

熊本地震災害救護活動

平成 28 年 4 月 14 日及び 4 月 16 日に熊本県熊本地方を震源とする最大震度 7 の地震が相次いで発生し、熊本県、大分県などで大きな被害が出ました。

日本赤十字社ではこの地震被害に対して発災当日から救護・支援活動を継続して実施。三重県支部においても、医療救護班（医師1名、看護師長1名、看護師 2 名、主事 4 名（薬剤師 1 名を含む））を 4 月 24 日から 28 日まで日赤熊本県支部へ派遣し、25 日から 27 日までの 3 日間被災地に開設された避難所や巡回診療等で、被災者への医療救護活動を行いました。

また、5 月 10 日から 16 日まで伊勢赤十字病院のこころのケア班（看護師長 1 名、看護師 1 名、臨床心理士 1 名、主事 1 名）が熊本県益城町避難所や役場を中心に、避難者や発災直後から対応に追われた役場職員等の精神的なサポートを行いました。

さらに、熊本赤十字病院を支援するため、4 月 29 日から 5 月 25 日までの間に医師 3 名、看護師 4 名、事務職員 1 名を派遣し、災害拠点病院としての同院の機能を支えました。

医療救護のニーズが落ち着いた後も、7 月 4 日から 9 日まで看護師 1 名を熊本県西原村へ派遣し、避難所で避難生活を送る被災者の方々に対する健康支援事業に取り組みました。

備え　日本赤十字社第 3 ブロック 支部合同災害救護訓練を実施

平成 28 年 11 月 5 日（土）、伊勢赤十字病院、伊勢赤十字老人保健施設「虹の苑」駐車場において日本赤十字社第 3 ブロック支部合同災害救護訓練を実施しました。

毎年度、第 3 ブロック（富山、石川、福井、長野、静岡、愛知、岐阜、三重）各県支部持ち回りで実施される当訓練を、今年度は三重県南部を中心とする地震により、県南勢地域で多くの負傷者、建物倒壊が発生し、甚大な被害がでているという想定で実施しました。訓練には近接支部である和歌山県支部からの支援に加え、伊勢市消防本部、三重県、伊勢保健所、陸上自衛隊、三重 DMAT、各日赤奉仕団員等約 400 名が参加しました。

この訓練で、災害が発生した際の各防災関係機関への連絡・通報から一連の流れを確認することにより連携強化を図るとともに、日赤各県支部救護班が合同で訓練を実施することにより、救護班員の知識・技術の向上に努めました。

三重県支部では、大規模災害の発生に備え、今後も引き続き訓練・研修の実施、災害救援物資の備蓄、災害救護用資器材の整備を図っていきます。

いのちを守る日本赤十字社

赤十字防災講習会

地域で

今年度は熊本地震、台風10号等による大雨、鳥取県中部地震、福島県沖地震と国内でさまざまな災害が発生し、大きな被害をもたらしました。日本赤十字社では、発災直後から情報収集や医療救護班の派遣を行い、救護活動にあたりました。とりわけ熊本地震においては、地元の医療機関の機能復旧に伴い医療救護のニーズが落ち着いた後も、避難所で避難生活を送る被災者が、健康を損うことがないよう支援する健康支援事業を7月中旬まで行いました。

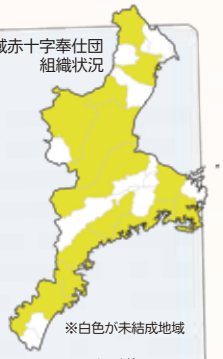
災害の規模が大きくなればなるほど、被災者に「公助」の手が届くのに時間がかかると言われており、私たち一人ひとりの「自助」、また周りと助け合う「共助」の力を養うことが重要となっています。

日本赤十字社三重県支部では、防災講習会を地域や学校で実施しており、地域における防災訓練で、学校の総合学習の時間で、いざという時に役立つ知識や技術を一人でも多くの方に身に着けていただき、災害に強いまちづくりのお手伝いをしています。

とっさの時に役に立つ
「新聞紙スリッパ」

講習会の計画ができましたら、事前（約2か月前まで）にお声掛けください。

地域赤十字奉仕団
組織状況



※白色が未結成地域

赤十字では多くの活動をボランティアの協力を得て行っており、現在、三重県内に約6,000名の赤十字ボランティアが「赤十字奉仕団」を組織しています。

市町ごとに組織している「地域赤十字奉仕団」は、地域における福祉活動をはじめ、自治会や自主防災組織と協働して防災訓練への参加、災害時には炊き出し活動等を行い地域における赤十字の顔として活躍しています。点訳、アマチュア無線、介護等、特殊な資格を持った方々で組織している「特殊赤十字奉仕団」は、技能を活かして県域で活動しています。また、学生、若手の社会人で組織している「青年赤十字奉仕団」は、青少年赤十字の支援や赤十字のPR活動を行い、若い力で赤十字を盛り上げています。

特に、「地域赤十字奉仕団」は未結成の地域がありますので、今後赤十字がみなさまにとって身近な存在になるよう組織づくりに努めます。

赤十字防災講習会開催実績（平成28年4月～11月末）

いなべ市	桑名市	四日市市	鈴鹿市	亀山市	津市	松阪市	伊勢市	伊賀市	名張市	木曽岬町	東員町	多気町
5回	2回	3回	4回	7回	11回	2回	8回	2回	2回	1回	1回	2回

学校で

平成28年11月27日（日）、伊勢市立大湊小学校において地区防災訓練が実施され、当支部も日頃からご支援をいただいている地元企業、株式会社鈴工様の協力のもと訓練に参加しました。

日赤は、青少年向け防災教育プログラム「まもるいのち　ひろめるぼうさい」を使って全校児童を対象に「津波」についての授業を実施しました。津波の到来が予測されている地域だけに、子どもたちも日頃から訓練や学習を重ね基本的な知識を持っているようでしたが、「すでに知っていることでも、大事なことは何度も繰り返し学んで自分の中で当たり前にすることが大切なんだよ。」という講師の言葉に応えるように、真剣に取り組んでいました。また、災害時の担架等がない場合にけが人や急病人を運ぶ搬送方法や心肺蘇生・AEDの使い方などの実技も併せて学びました。

今回の授業で使用した「まもるいのち　ひろめるぼうさい」は、自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が提案する「授業ですぐ使える防災教材」です。児童・生徒が主体的に防災に取り組めるよう、「気づき、考え、実行する」力を重視し、知識と行動力を身につけることができるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、いのちの大切さを学び取る力を育む内容になっています。また、わかりやすい映像資料（DVD）、対象学年ごとに合わせた指導要領が1冊にまとめられており、学校の先生方に使っていただきやすいものとなっています。三重県支部では、平成27年度から県内の学校に配布し、活用をお願いしています。救急法や災害時の炊き出し等、技術を学ぶ出前講座も行っていますので、ぜひ「青少年赤十字」に加盟いただき、ご活用ください。

僕らの言葉で、未来に伝える

子ども新聞プロジェクト

「子ども新聞プロジェクト」は、日本赤十字社愛知県支部と朝日新聞名古屋本社の防災学習企画です。5 回目となる今年度も愛知県、岐阜県、三重県の青少年赤十字加盟小学校から選ばれた子ども新聞記者が被災地を訪れ、取材、編集して新聞にまとめました。

三重県からは、津市立西が丘小学校 6 年生の界外心さん、津市立養正小学校 6 年生の加藤南海さんが参加し、東日本大震災から 5 年が経過した被災地の宮城県名取市や岩沼市、七ヶ浜町を訪れ現状と課題を取材しました。

震災後も懸命に生きているさまざまな立場の方と出会い、自らの目で見て、話を聞くことで大切なことを心に感じ取り、記者として取材したことをより多くの人に伝えたいと思う気持ちとともに、この地方でも発生が懸念されている「南海トラフ巨大地震」に対する防災意識を高めました。

平成 29 年度から
新たな制度でご協力をお願いします

毎年 5 月の「赤十字運動月間」を中心にみなさまにお願いしております「赤十字社員・社資募集運動」につきまして、平成 29 年度から新たな制度に基づいて、「赤十字会員・活動資金の募集」としてご協力をお願いしてまいります。

主な変更点

- 「社員」を「会員」、「社費」を「会費」といったわかりやすい名称に変更します。
- 500 円以上を目安としてご協力いただく個人、法人を「協力会員」とします。
- 2,000 円以上をご協力いただく個人、法人のみなさまに毎月赤十字が発行する広報紙「赤十字 NEWS」をお送りし、より赤十字への理解を深めていただけるよう情報提供に努めます。

地元の町内会、自治会、赤十字奉仕団などがボランティアで各家庭を訪問するなどして赤十字へのご協力をお願いする方法は変わりませんので、県民のみなさまにはこれからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

日赤みえ　発行元/日本赤十字社三重県支部

日本赤十字社 三重県支部
Japanese Red Cross Society
〒514-0004 津市栄町1丁目891番地　TEL 059-227-4145　FAX 059-227-6245
http://www.ztv.ne.jp/nissekim/